

五月三十一日

まだまだ地下の連中は力にならぬ。力にならぬ事を前提に色々な事を進める必要がある。スタッフを育てようなんて事は甘い夢である。設計は楽しいが教育は実りが少ない。グチじゃないんだ、もう絶叫状態なんだ。

六月一日 土曜日

大学院補講十時から十二時過まで。転形期の建築について。俊重坊重源の建築を介して。毎年この講義に関しては我ながら力が入ってしまう。キャンパスは休みで学生もわざわざ聞きにくるのだから私もついつい乗ってしまうのだ。

ゲートはようやくにして長いローマ滞在を後にしてナポリに向かった。

午後講習会。久しぶりに教師達と食事する。

六月二日 日曜日

屋上菜園の八車草が花盛りで我ながら見事である。種から育てたので非常に親愛感を覚える。植物鉱物は人間とちがって裏切らないのが良い。人間はやっかいな生きモノだ。夕方杉並渡辺邸現場。大方仕上がっていたが細部に諸々の問題が残っている。しかしこの現場作業から院生は様々な事を学んだだろう。それをどう生かせるのかが彼等にとっては最大の試練だろう。

六月三日

朝地下で全体のミーティング。全体のミーティングは意味がないからもうやらないというミーティング。石山研の小史を述べて今がいかに危機的状況なのかを知らせた。要するに私が居なけりやしようがない集団なのだから、もっと歴然とそうするぞと宣言したのだ。全体は私だけが知れば良い。サークル(同好会)状態なんだよな。建築同好会的心情の持主達にサークル状態から抜け出せと言っても仕方ない事なのは充分に承知してはいるのだが、ついつい言ってしまうのだね。無駄と知りながら。これが教師になつてしまう危険さなんだろう。九州研究所の野村悦子を本格的に設計作業に組み入れる事にする。学者オタクでもまだアレにはいいところがあるからな。

十八時日経原稿入れた。鈴木博之さん関係のモノも完了に近づいている。一本完了させなくちゃ面目なくて電話もできないよ。我ながら気が小さい。

ノロマの野本にウィリアム・モリスの壁紙を真似たカーテン生地をつくるように指示する。ノロマにも出来る事はあるに違いないのだ。と思いたい。入江長八もモリスの版木みたいな工夫で塗壁を作っていたんだからなあ。

世田谷村市場の照明器具には皆さんの反応が速い。サッカーワールドカップを時々TVで見るが、アルゼンチン、イタリア等のスピード、テクニクは桁が違うな。恐らく日本は予選リーグでも一勝も出来ないだろう。選手が発散するエネルギーというかオラみたいなもの格が違うような気がする。瞬発力に欠けるよね日本人は色んな意味で。ゲートはナポリでなかなか動こうとしない。

六月四日

朝菜園に生ゴミ埋める。昨夜は何故か眠れず。頭がボーッとしている。

午前中学部講義。サクラダファミリア教会の職人達、ワッツタワ一の事。学部二年生にはモノを作る面白さ、スピリッツというような事も時に話さなければならぬのではないかと思いついたが、最前列で眠ってる失礼な奴がいた。眠るなら外に出て眠れと怒鳴った。本当どれくらいイヤな感じなのか解るうともしないな。こういう蚊とんぼは。増々学生達の蚊とんぼ化現象は進行しつつある。

昼焼け小焼けのアー蚊とんぼ、眠って見たのはいつの日かゲーテに恥ずかしい、我ながら。私の詩心なんてこんなもんです。午後博士過程三人相談。十六時大学出。五反田トモコーポレーションへ。先日バンコクではったり会った友岡社長のマンダラを実見させていただく。この曼陀羅は聖徳寺観音堂に掛けられるものだ。

明治通りコンバージョンで学生、留学生の入居者募集、アンケート収集を開始する。インターネットに情報公開することにした。野村が珍しく動いている。よろしい。